

# 大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局  
大阪府中央区道修町3-3-10  
大阪屋道修町ビル3F  
06-6232-1095

## 次の100号に向かって！ みんなで一層の奮闘を！！

—大阪損保革新懇ニュース 100号記念号発行にあたって—

### 次の100号に向かって、賛同を広げ、活動をより大きく

代表世話人 野村英隆

大阪損保革新懇ニュースは本号で100号を迎えました。1998年夏、この革新懇結成の呼びかけをおこなった第1号からこの10年間に毎年ほぼ10号を発行し続けることができました。ご支援いただいた多くの仲間へ御礼を申し上げます。

この号から紙面の体裁を従来のB4版縦2段組2ページからA4版横組み4ページへ、全編パソコン編集に変更し、より親しみのある多彩な紙面をめざします。この号に100号を記念して各界のみなさんからいただいたメッセージを特集し、さらにクロスワード作家として多忙な「あずさ2号」氏からも特別の出題をしていただきました。職場や家庭で話し合い、多くの仲間から回答が寄せられることを期待しています。賞品も準備しています。

私たちは昨年10月、第11回総会でアピール『10年間の活動に確信持ち、国民が主人公の時代を作り上げよう』を確認、11年目の活動を展開しています。品川講演で言われたように『世界史が変わり始めている』時代です。1月20日、オバマ大統領が就任しました。ブッシュ路線とアメリカ発の世界経済危機から脱却の手腕が問われています。

世界経済危機が広がる中で日本の大企業と財界は真っ先に非正規労働者と正規労働者の首切りを始めました。日本経団連の前・現会長会社のトヨタ・キャノンがそのお先棒を担ぎ、大企業のやり方に批判が強まり、財界と財界人の劣化が話題になり、「人間を大切にせよ」という社会的反撃も始まりかけています。

いま、闘えば政治が動く。国民の声で政治が動くという新しい情勢が始まっています。革新三目標を掲げる革新懇運動がいよいよ真価を発揮する時代です。革新懇出番の時代です。麻生政権は解散・総選挙を逃がまわっていますが、今年こそ、政治・経済・労働の仕組みを国民本位に変えるとともに奮闘しましょう。

大阪損保革新懇の会員の特徴は、思想信条・所属組合・組合活動経験の有無・老若男女・現役・OBなどに関係ありません。雇用形態・名称・役職も関係ありません。新入社員・管理職・代理店主・代理店従業員などどなたでも歓迎します。

世界と日本の平和と国民生活の向上と損害保険産業に関わる者としてこの産業が国民生活の安心と安定に役立ち、国民とともに発展することを願う人は誰でも参加できます。現在、8つの企業毎に会員は320名を超え、現役とOBが半々、今年の新会員は30名を超えています。『世界史が変わり始めている』時代です。私たちが『革新懇の時代』を合言葉により一層の活動を展開するためには、そう遠くない時期に400名、500名の会員を擁し、活動の質を強化する必要を痛感しています。

次の100号に向かって、みんなで一層の活動の充実をめざし、奮闘しましょう。



2009年2月10日

89名が集った大阪損保革新懇講演会(交流会)の様

## 100号、おめでとう! 今後のご健闘を期待します! 各界のみなさんから寄せられたメッセージ -

「大阪損保革新懇ニュース」100号、おめでとうございます。会員数日本一の職場革新懇のニュースとして、リアルな職場の実態や多彩な学習の内容を伝える努力に敬意を表します。

いま政治の歴史的転換期を迎えています。労働者と国民は雇用・生活破壊とたたかい、政府・財界を追い詰めつつあります。このとりくみをいっそう広げる組織として、役割をますます発揮されることを心から期待します。  
全国革新懇事務室長 荒川和明

大阪損保革新懇ニュース第100号、おめでとうございます。損保革新懇が国政問題はもとより、絶えず「損保産業の社会的役割」を考え、その民主化を追求する取り組みを展開されていることは大変素晴らしいことです。

ニュースを通じて損保革新懇が、職場に網の目のように広がり大きく発展されることを期待します。

大阪革新懇事務局長 金治貞男

100号記念号お目出度う。大阪損保革新懇のとりくみはまことに立派でした。激変の年をむかえ益々その活動の重さが注目されています。何よりもその座標軸がぶれないことです。今後も正面から切れ目なく問題を正視して取り組んで頂くことを期待して居ります。

(財)国際開発センター会長 品川正治

大阪損保革新懇の結成はまさしく損保事業の規制緩和政策のもとで本格的な自由化が実施された時でした。みなさんがその狙いと問題点を明らかにするとともに行政と損保業界の責任を糾し、改善を要求してきた意義は非常に重要です。損保民主化と国民生活の安定のために損保革新懇運動のいっそうの発展を祈念いたします。

明治大学教授 押尾直志

大阪損保革新懇ニュースの100号記念発行に心からお祝い申し上げます。

貴革新懇がさらなる飛躍発展されることを祈念するとともに、損保の民主化を推進し、憲法と民主主義をまもり、平和・中立の日本をつくるため、ともに連帯してたたかうことを誓います。

あいおい損保革新懇 世話人 西村隆

結成10周年、ニュース100号と先進的な活動を展開されている大阪のみなさんにいろいろ学んでいます。

一昨年、貴革新懇の松浦章世話人を招き、『最新の金融・損保情勢と社会的役割の発揮』講演に参加者は多く学びました。先輩革新懇に今後いろいろ学びつつ、地域での活動を進めるつもりです。

香川損保革新懇代表世話人 石井進

やりましたね。100号発刊!心から敬意と連帯の挨拶を送ります。私たちも昨年11月第11回総会・記念講演会を開催、現在早春の集いを取組中です。「気軽に参加、気楽に懇談、楽しく、明日への活力が得られる活動」がモットーです。大阪損保革新懇の益々の活躍と発展を!

石川損保革新懇事務局長 中杉治雄

貴ニュース100号発刊を心よりお祝い申し上げます。今、私たちは世界史の潮流が大きく変わろうとしていることを実感しています。とくに昨秋来の内外の危機は、その深刻さの故に思い切った政治の転換を求める声が強くなっています。

今こそ政治革新の三つの共同目標と「国民と共にある損保」を目指し、元気一杯活躍されることを祈ります。

元全損保委員長 土田高三郎

100号おめでとうございます。着実に会員を増やし、活動を広げられていることに敬意を表します。

大阪損保革新懇のお世話で品川講演が奈良(06年12月)、いかるが(08年6月)、大和郡山(09年3月)の3回実現できました。

奈良県でも職場・地域革新懇の結成が進んでいます。今年秋、当地で開催される全国革新懇全国交流集会の成功に向けて頑張ります。さらなるご支援をお願いします。

奈良革新懇事務局長 横山 新

**Althou this world is full of suffering.  
It's also full of overcoming it..**

「世界は苦難に満ちているが、それを克服するものにも満ちている」これはヘレンケラーの言葉ですが、私たちの運動にも当てはまりますね。10周年、100号は通過点。引き続きご奮闘を。

フリージャーナリスト 西谷文和

大阪損保革新懇ニュース100号おめでとうございます。全国の仲間のお手本となる皆さんの日頃の活動に心から敬意を表します。とくに情勢にマッチしたシンポの開催は素晴らしいと思っています。これからも革新懇運動を大いに盛り上げるためにご奮闘ください。私たちも一緒に頑張ります。

証券・北浜革新懇 代表世話人 築山美朝

100号記念おめでとうございます。「継続は力なり」という好きな言葉がありますが、続けることは簡単なようで難しいことです。私もランニングを38年間続けています。その中で多くの仲間と出会うことができ私の財産となっています。発行のご苦労も多々あると存じますが、仲間を信頼し「継続は力笑顔でこつこつマイペース」で頑張ってください。

医療法人同仁会 耳原病院 北出祥夫

大阪損保革新懇ニュース100号の発行おめでとうございます。社会保障の貧弱な中で育ち、構成員の仲間同士の助け合い・セーフティネットの役割を果たしてきた自主共済の多くが潰されました。引き続き、自主共済潰し反対の運動へのご協力と労働者国民の安心と安全を守るため、共に頑張らしましょう。

大阪地方労働組合共済会 専務理事 石村茂

みなさん、メッセージありがとうございました。

これからも力一杯頑張ります。

## 損保自由化の歴史をふり振り返り未来を展望する part

### 損保産業の健全な発展のために

大阪損保革新懇世話人・

兵庫県立大学大学院博士後期課程 松浦 章

\*\*\*\*\*

2月10日に開催した大阪損保革新懇の2009年最初の講演会は、昨年11月・12月に引き続いて、松浦章さんが講師を務めました。

89人というこれまでにない参加者を迎え、ビデオカメラを使って同時中継した第2会場も満員でした。

引き続いて行われた交流会にも大多数の参加者がそのまま出席、職場・職種・年齢を超えての交流が広がりました。

シリーズ3回の講演会で延216名の参加でした。

\*\*\*\*\*

### 2009年損保産業のゆくえ

今回の3社統合をどう考えるのか。

第一に、歴史的に見ることです。損保自由化の12年をふり振り返り、今がどのような時期かということです。保険金不払い問題は、東京海上日動に言わせれば、第二次世界大戦などに匹敵する「未曾有の危機」でした。その言葉どおり、規制緩和・自由化の歪みを正す方向にすすむのか、それとも利潤第一主義の道にまたぞろ向かうのか、その分岐点に損保産業が今あることの「重み」です。一体どちらを向いて走るのか、まさにそのことが問われていた矢先の合併発表でした。

第二は、だれのための合併なのかということです。3社の共同記者会見で、三井住友海上の江頭社長は、「教育でお客さまに説明責任できる代理店を増やす。そうでない代理店には退場してもらうことも必要だ」と答えています。また、江頭社長は、臨時部支店長会議のスピーチで、「今回の経営統合において、当社グループは強い立場にある」傲慢になるようなことは決してないように」と述べました。そんな雰囲気があるということでしょうか。

「再編で会社数が減るのは消費者にとって良いことだろうか」(朝日1月24日)との疑問もあります。アメリカの損保会社の数は、2006年末、2648社です。日本は「先進国では先例のない寡占市場に向かっている」のです。さらに、日本経済新聞の社説も、「損保各社は・・・金融庁の行政処分を受け、業務刷新に腐心したばかりだ。契約者そっこのけで規模の競争に走るようではいけない」と指摘しています。



根本に「市場原理主義」の考え方があると考えざるをえません。昨年6月、日本興亜損保の株主総会で、兵頭社長の解任、他社との合併、保険引受と運用事業の分離、を求めた筆頭株主、サウスイースタン・アセット・マネジメントは、今回の再編劇で、具体的に損保ジャパンとの合併を言い出しています。しかし、同社はまた、東京海上日動が、日本興亜損保の買収に乗り出してくることを期待しているといえます。損保ジャパンと競わせて、値段の高い方に買い取らせればよいということです。ここに健全な損保産業発展の方向性を見出すことはできません。

### 損保産業の「役割」と「社会的責任」

今回の合併で、大きな特徴といえるのが、金融持ち株会社の役割です。今回統合するのは三井住友海上グループホールディングスとしてのものです。

金融持ち株会社にはさまざまな問題があります。

まず、個別会社へのチェック機能の問題です。東京海上日動や日新火災などの個社は、上場廃止となり東京海上ホールディングスに一本化されていますから、株主のチェック機能は直接には働きません。

次に、個別会社にたいする労働組合の交渉力が充分発揮されるかという問題です。

そして何より損保産業の「役割」認識の問題です。個別産業の「理念」や「精神」など関係ない、東京海上グループとして儲かればよい、となっているのではないのでしょうか。合併後わずか一年で、効率が悪いという理由によって一方的に外勤社員を放り出す姿勢はここから生まれているのではないのでしょうか。

東京海上ホールディングスは、また、来年1月26日に、「イーデザイン損保」という、携帯電話のネットワークを活用した直販会社を設立します。

Q & Aで、これまでの顧客層とは異なる若年層がターゲットだから、代理店とは競合しないとしています。が、実際はどうでしょう。来年4月には、損保ジャパンも金融持ち株会社に移行すると言われてい

ます。経済同友会終身幹事で日本火災元社長の品川正治氏は、損保はひたすら成長しなければならない産業ではないと強調します。なぜか。保険料が巨額になるということは、逆に考えれば、それに見合った巨額の保険金を支払うということだからです。収保規模が2兆円であれば、1兆円以上の保険金を支払う。はたしてそれだけリスクの大きい社会が健全な社会なんだろうかという、きわめて原点的な問題提起です。「損保から社会を見るのではなく、社会から損保を見る」ということだと思えます。

### 脱「利潤第一主義」の経済社会

経済成長のためにはひたすら生産性をあげなければならぬ。そうでなければ国際競争に負けてしまうと。しかし本当にそうでしょうか。労働者の犠牲の上に高い利潤をあげることで国際競争力がついたといえるのでしょうか。

国際的に見れば、流れはけっしてそうではありません。たとえば、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、ノルウェーの北欧4国は、「経済成長力指数」や国民一人当たりのGDPで上位に入っています。「経済成長力指数」はいずれも日本より上です。しかしこれらの国に長時間労働はありません。「利益至上主義に陥らずしかも弱者の痛みを知っている国民多数を作ることの方が、高い経済水準を達成することを北欧の政府や社会は知っている」からです。実際デンマークなどでは教育予算はGDP比で日本の2倍以上です。

金融危機で、世の中の空気も変わりつつあります。この間、注目すべき発言がありました。90年代より、「構造改革」の急先鋒として日本の経済政策に大きな影響を与えてきた、一橋大学名誉教授の中谷巖氏の発言です。彼は、これまで自らが主張してきた、市場原理主義の考え方が誤りだったと、「転向」宣言を行いました。氏は、『日本の社会は悪平等だ』『日本の企業は非効率だ』と言われていた頃のほうが、実は日本社会は、日本の会社はずっと元気だったのではないだろうか」と述べています。

司法試験の塾・「伊藤塾」を主催する伊藤真氏は、コ

ンプライアンスという「法令」の基本は憲法であると言います。そしてその憲法において最も大切な価値観は、第13条の「個人の尊重」・「個人の尊厳」であるとします。だから会社という組織も、従業員や働く人々が幸せになるために存在していると言うのです。これは、今の社会で本当に励ましになる考え方です。

損保における「人間尊重」の現実はどうでしょう。今、派遣社員の解雇や雇い止めがあれだけ社会問題になっています。それでは、損保会社が代理店を無理やりやめさせるのはどうでしょうか。生活の糧を奪うと言うことでは同じではないでしょうか。

日本損害保険協会・「行動規範」の基本原則に「人間尊重の原則」が挙げられています。「事業に関わる全ての関係者に対し、人間尊重を行動の基本精神とする誠意ある行動をとる」というものです。損保協会が「人間尊重」を強調し、損保会社があれだけコンプライアンスをいうのであれば、まず何よりも憲法を、そして憲法の精神である「人間の尊厳」を守り、従業員・代理店を大切にしなければなりません。

今回の金融危機は、本来、国民のための損保産業に真に転換するチャンスです。現場では、みんないい仕事したいと思っています。日々苦勞を重ねている労働現場の声をもっともっと大きく広げましょう。

### 短歌

田崎博美さん(日本興亜損保)

「夕焼けよ！あすは晴れる」と子は言いて

木枯らしの中をころころとゆく

山茶花はうすき花びらちちらせて

せいといっぱいの冬陽を返す

愛しきは葉をびったりと地に這わせ

霜に光れる冬のたんぽぽ

### 高田橋さんのたたかい

第5回弁論準備協議は

3/9(月) 13:00~

大阪地方裁判所8階です。

労働審判廷前の廊下を

熱いまなざしで埋め尽くしましょう！

\*\*\*報告集会\*\*\*

18:30~ アイクルの部屋